

2013年3月期第3四半期決算説明 質疑応答

1. 日時：2013年2月4日(月) 17:30~18:30

2. 場所：コンファレンスホール

3. 当社側説明者： 代表取締役専務執行役員 CFO 岡田 譲治
執行役員 CFO 補佐兼経理部長 松原 圭吾
IR 部長 堀 健一

4. 質疑応答：

質問 当第3四半期単独の一過性要因を整理願いたい。

回答 当第3四半期単独の一過性要因は、株式売却益が約240億円。内訳はGoroみなし売却、三国コカ・コーラ株式、LME株式、MOECO保有のINPEX株式、米州での売却益が中心。一方、評価損が計△140億円で、Valeparの持分法損益に含まれるValeのニッケル・アルミ資産減損、Valepar優先株の短期化部分に係る減損、電力事業に係るMtM評価損約△10億円。以上ネットで約100億円の利益。

質問 当第4四半期単独の利益予想額が大きく減る計算になるが、当該四半期で何らかの資産整理を考えているか？それとも年間見通しの金額を変えなかったことによる、逆算の金額と捉えるべきか？

回答 今回、年間予想を据え置いているが、為替・資源価格のVolatilityが高まっていることを勘案した上でこのような金額とした。

質問 冒頭で言及した為替時価評価損は、現時点でどれくらい出そうか？

回答 足元の為替は12月末から少し円安方向に動いているので、現段階での試算はしていないが、ある程度損失は出ると考える。

質問 石炭事業に関し、豪州の大雨について、当社J/Vにも影響ありそうだが、現状は。

回答 当社保有の鉱区における影響より、寧ろ積出しに関わる鉄道に影響が出ている。Dawsonに繋がるMoura線の復旧まで、1ヶ月間輸送が停止する見込み。Kestrel等に繋がるBlackwater線は2週間程停止し、2月8日前後に復旧の見通し。損益インパクトは精査中だが、ネガティブ要因になる可能性あり。

質問 来期に向けての為替のインパクトは。経常為替部分である豪ドル対米ドルについて、当社は基本的にヘッジしていると理解しているが、為替の水準が大きく変わっていないので、インパクトが出ない一方、対円で豪ドル高になっているので取込損益の円換算において来期為替のプラスをみて良いのか。経常為替・取込為替に関して、現状の為替水準が続いた場合インパクトをどう見ればいいのか教えてほしい。

回答 豪ドル対米ドルのヘッジは全額行っているわけではないので、その時点によって違うが影響はあると思う。取込益のsensitivityで計算すると、ややプラス金額が出過ぎかと思う。

質問 当社のヘッジ方針は。

回答 非開示。

質問 エネルギーセグメントの持分法損益が、当第2四半期から当第3四半期にかけて大きく増えている理由は。

回答 JAL-MIMI（業績数値は非開示）の好調が主因。

質問 MEPTXに関し、当第3四半期が、当第1・2四半期に比し減益となっている要因は。

回答 当第2四半期の+24億円から、当第3四半期は+7億円（いずれも税前ベース）となっているが、同社で行っているヘッジ会計が適用されない原油ヘッジにつき、時価評価損益が各々+9億円、△12億円含まれており、これを足し戻すと微増になる。

質問 化学品セグメントは、当第3四半期単独で20億円の赤字となっているが、不採算事業のリストラに関連する損失がどの程度あり、実力ベースでどれくらいと考えればいいのか。

回答 長期契約解約に伴う損失は約20億円で、不採算事業の解約に係る損失は当第3四半期で概ね出ている。

質問 現中経では、1年目から2年目にかけて500億円増益との説明があったが、現時点ではどう見ているか。

回答 金属資源・エネルギーの増量、それ以外の分野での果実化を理由に500億円伸びると説明した。増量に関しては概ね順調だが、果実化については来期事業計画の中で、最新の状況を踏まえて今後再度検証していきたい。

質問 鉄鉱石スポット価格が上がっているが、当社の当第4四半期にも相当程度効いてくるという認識で良いか。スポット価格は予想以上に上がっている背景と今後の見通しは。

回答 様々な値決め方式があるので、足元のスポット価格上昇が販売量全てに効いてくるわけではないが、一部はプラスに働く。

堅調な鉄鉱石価格の背景として、中国粗鋼生産量の前年比増加、新体制の経済政策への期待、上向きな鋼材需要などが挙げられる。中国経済が昨年底を打ったとの観測に加え、新規投融資に資金が向かう期待感もあり、鋼材原料の調達が増えている。また、例年1-3月期は中国国内の鉄鉱石生産が減少する傾向にあり、需給がタイトになっていることもある。今後については、上述の見通しの実現次第なので、現時点では明確な考え方は申し上げられない。

質問 今期業績見通しは維持しているが、当第4四半期で業績がぶれた場合に配当はどうするか。当第2四半期決算では、来期以降の配当に関し議論しているとの説明があったが、例えばキャッシュ・フローを意識した配当政策等、議論の状況を教えてほしい。

回答 配当については、3,100億円の年間見通しに対して1株当たり年間43円、という先般開示した数字しか存在しない。純利益が上振れたら増えるとは言えるが、業績が予想を下回った場合に何かコミットできるような議論はしていない。現状の方針に従えば、減額ということになる。

来期以降については、事業計画を摺り合せていく中で、株主への安定配当も含めどう考えるかを詰めていきたいので、暫しお待ちいただきたい。

- 質問 コデルコ関連の融資手数料は当期で全て計上済みか。それとも、金利等来期以降も入る見通しあるか。
- 回答 手数料は当期で計上完了だが、融資に関する金利は今後も入ってくる。金額については非開示。
- 質問 コデルコ関連の融資手数料は PL の受取利息に計上されているか。
- 回答 然り。
- 質問 市況が現在の状態のまま続いた場合、来期にかけて利益はどの程度増えるか。
- 回答 現状の鉄鉱石価格や為替レートを前提に置くのであれば利益は増える。資源事業は前提価格次第で大きくぶれるが、sensitivity を開示しているので、それを参考に計算してほしい。
- 質問 期首に発表された sensitivity はそのまま使ってもいいのか。
- 回答 sensitivity は年に一回見直す。現段階では何とも言えない。
- 質問 鉄鋼製品・化学品の足下業績が非常に悪かったが、不採算事業の整理やその他一過性損失を除けば当第 3 四半期から当第 4 四半期にかけて浮上していくか。実際のビジネスの状況を確認したい。
- 回答 化学品は、石油化学中間原料の不採算事業の契約を解除しており、約 20 億円のマイナスインパクトがあった。不採算事業の一部はまだ残っているが、収益基盤を立て直す中で問題を解決していく。当第 4 四半期の予想値は手元にはないが徐々に改善を目指す。また、KPA において当第 3 四半期はトラブルにより稼働率が低下、アンモニア関連が落ち込んでいたが、アンモニア価格自体は堅調なので、当第 4 四半期は改善を見込むことも可能と考えている。
- 鉄鋼製品は、貿易為替にかかわる時価評価損、一過性税負担及びエネルギー鋼材で一過性のマイナス等あるが、これらを足し戻せば当第 3 四半期も第 2 四半期と同水準の利益が出ている。時価評価損については、いずれは契約履行と共に取り戻されるものだが、現状の為替水準が続けば当第 4 四半期にも計上が見込まれる。同本部においても、より収益回復の速度を上げるべく、手を打っている。
- 質問 モザンビークの現状のマーケティングについて説明願いたい。また、当第 3 四半期にかけて損失がやや拡大しているが、今後の見通しは。
- 回答 モザンビークは本年末の FID を目指し取組中であり、アジアを中心に、欧州勢を含めマーケティングしている。現状損益として出ているのは探鉱費が中心。今後の予想は難しいが、当該費用負担は続くと思われる。

以 上